

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和3年6月18日（金）10時30分～12時15分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

大辻室長補佐、知見主任安全審査官、高松専門職、横山係長、久川係員
澁谷企画調査官、高木技術参与（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所

坂本原子力運転検査官、田中原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当9名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - 水処理設備の運転状況
 - 2号機原子炉建屋滞留水の水位低下に伴うサプレッションチェンバー（S/C）開口部気中露出時の対応方針について
 - ✓ 現在、2号機ではS/C内包水水位と建屋滞留水水位（トラス室水位）が同程度であり、原子炉格納容器（PCV）内の圧力は1～5kPa（ゲージ圧）程度で維持できていることから、建屋滞留水水位（T.P.約2000mm）より低い位置にS/Cの開口部があり水封されていると推定している。このため、今後、建屋滞留水水位を低下させることにより、S/C開口部が気中に露出する可能性がある。
 - ✓ 2号機では燃料デブリの試験的取り出し作業等を計画しているが、S/C開口部が気中に露出した状態では、作業時に飛散したダスト等がPCV外へ放出されるリスクがある。しかし、ダスト対策としてS/C開口部を水封させる場合、特定原子力施設監視・評価検討会（以下「検討会」という。）で目標として示している建屋滞留水の半減が困難になる可能性がある。
 - ✓ 当面の対応方針として、建屋滞留水水位の低下途中にS/C開口部が気中露出し、PCV内圧力が低下した場合は、S/C開口部が再水封されるまで水位を戻すこととする。ただし、作業に伴うダスト濃度に問題がないと判断できれば、水位低下を進める。なお、2号機では最初に燃料デブリを取り出すことから、慎重に対応する必要があると考えており、ダスト濃度を上昇させる可能性のある作業を開始する前に水位を戻して再水封することを検討している。
 - ✓ 次回、本年夏頃に建屋滞留水水位を低下させる計画であるが、その前に2号機PCV外に連続ダストモニタを設置する予定。
 - Fタンクエリアフランジタンク内包水処理について
 - ✓ 2月13日の福島県沖地震等の影響により、Fタンクエリアフランジタンクからの漏えいが発生したことを受け、当該タンク内包水を減らして漏えいリスクを下げるために早期に淡水化装置による水処理を実施する必要がある。
 - ✓ 一方、現状の淡水化装置からの戻り水の移送配管（ポリエチレン管）には塩分等が析出して閉塞傾向にあることから、当該配管の取替を予定しているが、資材調達に時間を要するため、取替が完了するまでの間、安全対策を強化し漏えいリスクを低減した上で、仮設配管（耐圧ホース）を用いて

水処理を進めたい。

- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメントを行った。
 - 増設多核種除去設備C系の点検停止について、クロスフローフィルタ後段のカルシウム濃度の上昇に伴う対応によるとのことであるが、昨年10月に発生した同様の事象も含め、現在の対応状況を整理して説明すること。
 - 2号機原子炉建屋滞留水の水位低下に伴うS/C開口部気中露出時の対応方針について、これまでに検討会で示していた水位低下計画に影響があることから、今後検討会で議論を行う可能性がある。また、燃料デブリの試験的取り出し作業等によるダスト飛散の影響を考慮し、PCV内を負圧にすることを含め、ダスト対策について速やかに検討を進め説明すること。

6. その他

資料：

- 汚染水対策スケジュール
- 水処理設備の運転状況, 運転計画(2021年6月4日~2021年7月1日)
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について(2021年6月4日~2021年6月17日)
- 福島第一原子力発電所における固体廃棄物について
- 2号機原子炉建屋滞留水の水位低下に伴うS/C開口部気中露出時の対応方針について
- Fタンクエリアフランジタンク内包水処理について